

## いわき農林事務所ニュース

2008年 3月号



### ◎活動状況

- ・ [第2回農業普及事業外部評価懇談会開催](#)
- ・ [平成19年度第3回いわき地域有機農産物等普及推進会議開催](#)
- ・ [第2回女性農業者育成セミナー開催](#)
- ・ [第2回農業普及推進懇談会開催](#)
- ・ [いわき地方グリーン・ツーリズム地方推進会議開催](#)
- ・ [農業高校等連携促進事業でフレッシュ農業ガイド講座開催](#)
- ・ [食と農の絆づくり交流会開催](#)

### ◎トピックス

- ・ [「第4回ごはん簡単アイディアクッキング大会」開催](#)
- ・ [流域林業活性化セミナー開催](#)

## 活動状況

### ○第2回農業普及事業外部評価懇談会を開催しました

いわき農林事務所では、第三者による外部評価を受けて、いわき地域における普及指導活動の効果的推進と、活動成果の効率的な波及を図るため、平成17年度から3カ年にわたり外部評価懇談会を開催しております。

本年度は10月に開催した第1回懇談会に引き続き、2月5日（火）に2回目の懇談会を開催しました。

今回は、懇談会に先立ち、本年度の評価課題ともなっているアグリビジネスや女性農業者育成の観点から三和町下三坂の農家レストラン「柏の里」において現地検討会を実施し、取り組みの今後の更なるステップアップに向けて貴重な御意見をいただきました。また、現地検討会終了後の懇談会では、本年度の評価対象である「水田を活用した農業の活性化」と「サンシャインいわき農業を担う経営体の育成」の2課題の活動実績について報告し、次年度以降の活動に向け御意見、御提言をいただきました。

その後、懇談会での意見交換の内容等を踏まえて、評価結果書として取りまとめられ、3月14日（金）に大川会長より本田いわき農林事務所長に手渡されました。

当事務所ではこれに基づいた改善計画を策定し、普及指導活動の効率化を図っていくこととしております。



評価結果書を受け取る本田所長

[平成19年度農業普及事業外部評価に基づく改善計画書はこちらをご覧ください \(PDF\)](#)

[平成19年度農業普及事業外部評価結果報告書はこちらをご覧ください \(PDF\)](#)

### ○平成19年度第3回いわき地域有機農産物等普及推進会議を開催しました

いわき農林事務所では、昨年度より「いわき地域有機農産物等普及推進会議」を設置し、関係機関・団体等と連携して有機栽培等の技術の普及や産地化を推進しています。

去る2月7日（木）に、本年度第3回目の会議を開催しました。

会議には有機栽培等実証ほの担当農業者や県、市、JAなど関係機関・団体に加え、流通・販売の関係者にも出席いただき、本年度のいわき地域における有機栽培等の普及推進実績や推進上の課題、4カ所設置している栽培技術実証ほの成績について検討するとともに、今後の有機農産物等の普及拡大に向けた意見交換を行いました。

今回出席された2名の流通・販売関係者の方々からは、最近の諸情勢を背景に消費者の食品への安全志向がより一層強まる中、品目数の増加や周年での供給など市場側から見た今後の有機農産物等に対する期待の大きさが述べられました。

推進会議では、次年度も定期的な開催により、有機農産物等を活かしたいわき地域の農業振興を図っていくこととしています。



会議の様子

直売・加工等の起業化への取り組みは、いわき地域でもますます活発になり、多くの農業者が活躍しています。第1回目は野菜の品揃えなど商品に関する内容で開催しました。そこで、第2回目は2月8日（金）に「元気な直売所（買い場）づくりはお知らせ（POP・広告）から」と題して、買う場所づくり、人づくりのセミナーを開催しました。講師はPOPセンター福島代表の川村洋一氏でした。POPとは商品名や価格、説明文やイラストを手書きしたもので、売り上げを左右するといわれるほど、お客様へのPR効果があります。

お客様を迎える場所づくりのポイントとして、営業時間や品切れ・入荷予定など案内は分かりやすくお知らせしているか、お客様には素直に前向きに接しているかなど、講師の経験を交えての講演がありました。また、POP入門編では実際に野菜の値札を例に分かりやすい表示を学びました。

講師の話に惹きつけられ、笑いながら、あっという間の時間でした。

受講者の方々からはさっそく実践してみたいとの声が多く聞かれました。今後、受講者の方々がいきいきと活躍し、農村地域がますます元気になることを期待しています。



川村洋一氏による講演

普及指導活動の推進に農業者や農業団体等関係機関の意向を反映させ、効率的な活動を推進するとともに、連携を強化するため農業普及推進懇談会を開催しております。

本年度は、昨年10月に第1回懇談会を開催しましたが、今回2月15日（金）に第2回懇談会を開催しました。

懇談会では、平成19年度普及指導活動実績に基づき意見交換を行うとともに、平成20年度普及指導計画（案）について説明し、御意見をいただきました。

各委員からは、「認定農業者の確保・育成については、質的な改善に向けた支援指導を強化する必要がある。」ことや「女性グループが新たな取り組みを始める際に、施設・機材の整備をはじめ各種の支援が必要である。」ことなどの意見が述べられ、可能な限り次年度からの普及指導計画に反映させていく考えであります。



懇談会での意見交換風景



## ○いわき地方グリーン・ツーリズム地方推進会議を開催しました

2月20日（水）、いわき地方グリーン・ツーリズム推進会議が県合同庁舎内会議室で開催されました。

会議では、「東京都練馬区農業体験農園園主会にける取り組み」について、当園主会会長の白石好孝氏に御講演を頂きました。「百姓」という言葉が卑下されている現状をどうかしたいとの思いから、首都圏での農家と非農家との農業を仲立ちとした関わり方や練馬方式という体験的な利用・入園料方式による農業の感動、癒しの機能を付加価値とした農業経営手法について、事例を交えながら講演していただきました。



白石好孝氏による講演

また、当会議設置要領の改正や平成19年度の活動実績及び平成20年度活動計画等について、各構成員から多くの意見をいただきました。

今後、それらの意見を反映させた当会議のより発展的な活動を期待しています。

## ○農業高校等連携促進事業でフレッシュ農業ガイド講座を開催しました

いわき農林事務所では、磐城農業高等学校と連携し、学校教育への支援や農業のPR等を通じて、次代を担う若い農業担い手の確保育成を図ることを目的として、平成17年度から5カ年間、農業高校等連携促進事業に取り組んでいます。

去る2月21日（木）に園芸科1年生を対象に、フレッシュ農業ガイド講座と題して、いわき農業青年クラブ連絡協議会員による農業に対する考えや就農のきっかけ等の事例発表と花きの販売現場の実情の観点からフラワーアレンジメント実習を行い、農業生産と販売現場について学びました。園芸科1年生の生徒は昨年11月に実施した農業生産現場・施設等視察研修に続いての実施となりました。生徒は実際に農業で頑張っている若い農業者の生の声を聞くことができ、個別での質問も積極的に行い、貴重な経験となった様子でした。



農業青年クラブ員による事例発表の様子

次に、フラワーアレンジメント実習を行い、思い思いにアレンジメントを楽しみ、個性のある作品に仕上がりました。フラワーアレンジメントを実施するに当たり、季節感のある花きの利用が大切であることが理解されたのではないかと思います。

今回のフレッシュ農業ガイド講座が今後の学校生活に役立つものと期待しています。

## ○食と農の絆づくり交流会を開催しました

2月26日（火）、平成19年度うつくしま農林水産物地産地消推進事業の食彩ふくしま・ふるさとの食発信事業として「食と農の絆づくり交流会」を、いわき市立中央台公民館において開催しました。

県はこれまでも地産地消を推進するため、主に一般消費者への消費拡大のためのPRイベントを開催してきましたが、最近の農産物の流通が食の外部化の進展に伴い、加工、中食・外食用指向が増加していることなどから、一昨年からは地域の実需者を含めた地域の農産物の利用促進を目的としたセミナー等も開催してきました。

今年度は、生産者と実需者とがより密接な連携を図り、いわき地方において一層の地産地消を推進するため、生産者と実需者の意見交換会を開催しました。

参加者は、生産者と実需者併せて14名と少数でしたが、これまで各々に取り組んできた地産地消に関する取り組みや生産状況などについて、率直な意見交換が行われました。今回の意見交換会を通して、参加した生産者と実需者の絆が深まっただけでなく、改めて行政サイドとしての課題もみえてきたことから、今後の事業の進め方の参考ともなった交流会となりました。



交流会の様子

## トピックス

「第4回ごはん簡単アイデアクッキング大会」が、2月2日（土）にいわき米改良協会の主催、いわき市の共催、東北農政局福島農政事務所地域第三課・福島県いわき農林事務所・いわき市共済組合の後援により、いわき市中央台公民館で開催されました。

「いわき米」の認知度を高め、一層の消費拡大を図るため、「ごはんでヘルシーランチ料理を」～ごはんを食べて健康になろう～をテーマとして一般消費者を対象にいわき地方の特長を生かしたご飯料理を広く募集し実施されました。

当日は、レシピ審査で選ばれた高校生6名の参加者が実際に調理した作品を、普及性、創意工夫、美味しさ、見た目、いわき産食材使用の観点から審査が行われました。それぞれいわき地方の食材を使用し工夫を凝らした作品でしたが、アイデアクッキング大賞には内郷高坂町の高校生我妻直也さんの「メヒカリの押し寿司」が選ばれました。

今後はレシピの作成や、関係機関のホームページ掲載により活用していく計画となっています。



調理も真剣



我妻直也さんの作品

2月25日（月）、磐城流域林業活性化センター主催の「流域林業活性化セミナー」がいわき市内郷高坂町の市総合保健福祉センターで開催されました。

林業活性化セミナーは浜通り地方の林業関係者の研さんの場として年数回開いており、今年は3回目で、約60人が参加しました。経営コンサルタントで株式会社山田事務所の山田稔氏、株式会社森林再生システムの富村周平氏の両氏が講師を務め、「上下流連携いきいきプロジェクトについて」、「改正建築基準法などが木材業界に及ぼす影響と対応策」と題して講演されました。

山田氏は、現在、林野庁で推進している「新生産システム対策推進事業」の奥久慈八溝モデル地域の担当コンサルタントとして携わっており、講演では、幅広い見識から、改正建築基準法の影響のほか、磐城流域内間伐材を合板単板として活用する手法について詳細な説明をいただきました。富村氏からは、磐城流域地域における森林資源調査の結果報告をいただき、実り多いセミナーとなりました。



講師の山田稔氏と熱心に聴講する参加者

